

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 2月 14日

事業所名 Roselle Association III

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	5	1		戸外の公園なども活用 し児童が思い切り体を 動かせるように配慮して いる。	
	2 職員の配置数は適切である	6				
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている	4	2		段差の少ない室内 となっている。	お風呂場のみバリアフリーが必要。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いる	6			定期的に職員で 行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	5	1			年に一度の保護者会等で実施し、把握でき るようにしていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	6			公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	4	1	1		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	6			月に四回ケース検 討会も含め研修を 行っている。	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護 者のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	5	1		保護者へのモニタリ ング等で定期的にア セスメントを取り直 し、計画書を作成して いる。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している	3	3		えいぶるなどを活 用している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行って いる	6			毎月チームで話し合 いの場を設けている。 月の予定やプログラ ムを職員間でアイ ディアを出し合い行っ ている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫 している	6			月の予定やプログラ ムを職員間でアイ ディアを出し合い行っ ている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をき め細やかに設定して支援している	6			月の予定やプログラ ムを職員間でアイ ディアを出し合い行っ ている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団 活動を適宜組み合わせ放課後等デイサー ビス計画を作成している	6			児童一人一人に合 わせた計画書を作 成している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	6			確認と書面での通 達をしている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せを し、その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	4	2		不在のスタッフもい るため、翌日の朝 にて申し送りを行っ ている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとるこ とを徹底し、支援の検証・改善につなげ ている	6			記録も二種類あり、細 かな特記事項を書く 記録も活用し連携 している。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判 断している	6			必要に応じて 行っている。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組 み合わせて支援を行っている	6			ガイドラインを参 考にしている。		

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			基本管理者・児発管が行っている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6			基本管理者・児発管が行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	2			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	2		その都度送迎時や書面などを活用し情報交換している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	4			移行が必要な児童がおらず。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1	1	研修会等は参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	1	1	児童館などを活用している。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2	1	参加していない。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		1	お便り帳や送迎時の引継ぎを主に状況の伝達を行い、特記がある場合は児発管より連絡している。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	2	個別支援計画書の中身を保護者向けにかみ砕いて作成し、自宅でも出来るような工夫を行っている。		
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1		その都度、対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2	2	年に一回行っている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			苦情なし。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	2	1	毎日連絡帳を記載し、年に一度の保護者会にて写真等で発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	6				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	1	3	地域の講師に招き防災訓練等を行い、開かれた事業所運営を心がけている。	今後も、定期的にお招きできるよう企画する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	1	その都度必要に応じて、事前に周知している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		年に2回以上行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		法人全体で研修会を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		身体拘束が必要となる以前に支援にて改善を行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	保護者から伝達してもらい、対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1	月に一回ヒヤリハットを作成し、共有している。	